

立候補者のお名前	西村ちなみ
所属政党	立憲民主党
選挙区／比例ブロック名 (*)	新潟 1 / 北陸信越
問 1 貴殿が今回の衆議院議員選挙に立候補される際の「個人の選挙公約」に、何らかの LGBT 支援・権利確保政策は既に含まれていますか？将来はいかがでしょうか？（単独回答）	1. LGBT の課題として、既に含まれている
問 2 個人としての、LGBT 当事者への接し方について、お伺いします。ご家族や友人から LGBT であることを、もし告白（カミングアウト）されたら、あなたはどうなさいますか？（複数回答可）	1. その人を尊重し応援したいと思う
問 3 - ① 性的指向・性自認と、LGBT 当事者の直面する困難について、広く社会に教育・啓発を行う	1) 法律で義務化し、全国的に普遍的な制度とすべきである
問 3 - ② 学校教育において、多様な性を学習する事を通じて、LGBT へのいじめ・差別を防止する	1) 法律で義務化し、全国的に普遍的な制度とすべきである
問 3 - ③ 国・自治体の各レベルで、LGBT（性的指向・性自認に係る）の困難解消に向けた、基本計画を策定し実施する	1) 法律で義務化し、全国的に普遍的な制度とすべきである
問 3 - ④ 学校・職場における、LGBT へのいじめ・ハラスメントの防止体制を確立する	1) 法律で義務化し、全国的に普遍的な制度とすべきである
問 3 - ⑤ 困難を抱く LGBT に対する、相談・支援の仕組みを、学校・職場等に整備する	1) 法律で義務化し、全国的に普遍的な制度とすべきである
問 3 - ⑥ LGBT に対する（性的指向・性自認に係る）、差別や不利益取扱いを防止・禁止する法律やルールを制定する	1) 法律で義務化し、全国的に普遍的な制度とすべきである
問 3 - ⑦ 施設・職場・学校等にて、LGBT に配慮した、サービスや施設面の対応を推進する	1) 法律で義務化し、全国的に普遍的な制度とすべきである

<p>問4 世界では、現在41の国と地域で同性婚が制度化され、他の多くの国・地域では同性間に適用できるパートナーシップ制度が広がっています。同性どうしの二人の場合、現行の日本の婚姻制度に当てはまらないため困難に陥る例が多く、異性間と同様・同等に、法的認知・サポートを受けられるようにする法制化を望む声が高まっています。どのような対応が望ましいとお考えですか？（複数回答可）</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 同性間でも男女と同じ婚姻制度を適用できるようにすべきだ、 2. 現在の婚姻に加えて、別途同性間だけのためのパートナーシップ制度を設けるべきだ、 3. 現在の婚姻に加えて（事実婚など異性間でも）同性間でも利用できるパートナーシップ制度を設けるべきだ、 4. 各自治体が、条例や首長のリーダーシップにて、同性間の関係を認知する宣誓・証明等を行う仕組みを広げていくべきだ（渋谷区、世田谷区、伊賀市、宝塚市、那覇市、札幌市等の例にならない）
<p>問5 貴殿が当選した暁には、様々な困難に直面する LGBT 当事者を支援する為、ひとりの国会議員としてどのような事が出来るとお考えでしょうか？ ご自由にお書き下さい。これまでのご経験や実績を踏まえてお書きいただいても結構です。</p>	<p>私が取り組んできた、通称「LGBT 差別解消法案」が立憲民主党の政策集にもしっかりと明記されていることをご確認いただきたいと思います。</p> <p>また、LGBT だけでなく、あらゆる差別に反対し、社会の分断を許さないための法案整備や啓発活動などにしっかりと取り組んでいくことを改めてお約束いたします。</p> <p>その上で、私の「差別」についての基本的な認識・考え方について付言させていただきます。</p> <p>まずは、私の根底に「一人ひとりの人権と多様性を尊重する」という基本理念があることを強調いたします。</p> <p>残念ながら、現状においては、男女差別・障がい者差別・部落差別・外国人差別等など、差別や偏見に満ち満ちています。</p> <p>では、これらの解消策はどうか。まずは2013年に成立し、昨年発効した「障害者差別解消法」の理念でもある「障がいのある人もない人もともに安心」できる社会を構築するために「直接的な差別」だけでなく「合理的な配慮義務違反」をさせないための取り組みを強化すべきと考えます。</p> <p>LGBT 差別の解消に向けては、これまで通り LGBT の当事者団体等との意見交換会などを継続的に実施し、当事者の方々の意見を伺いながら、差別や偏見がなくなるよう取り組んでいきたいと考えています。</p>